

## 三味線のお手入れ・保管方法について



本資料では、文化庁 邦楽普及拡大推進事業で貸与している三味線を専用ケースから取り出して調弦できるまで、演奏終了後、三味線を保管するまでのお手入れ・保管方法を解説します。正しいお手入れ・保管方法を身につけ、大切な楽器と長く付き合しましょう！

## 三味線について学ぼう

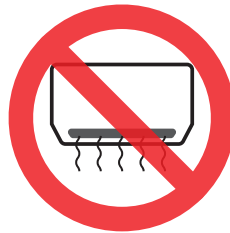
三味線は、自然の材料を使って製造されている、非常にデリケートな楽器です。ぶつけたり、落としたりすると、破損してしまいます。取り扱いには十分に気をつけ、正しいお手入れ・保管方法を身につけましょう。

### 湿気(水分)には要注意!



三味線が濡れてしまったら、乾いた布で水分を拭き取り、陰干しをして乾かしてから保管してください。

### 空調\*が直接 当たる場所はNG!



寒暖差の激しい場所や湿度が高すぎたり、乾燥しすぎたりした環境は、三味線にとっては大敵です。空調が直接三味線に当たると、乾燥して傷んでしまうので、避けましょう。

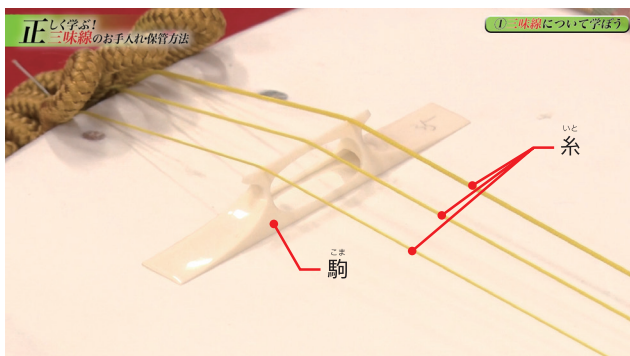
\*空調には、エアコンや扇風機、ストーブなどが含まれます。

### 直射日光が 当たる場所はNG!



空調と同じように、太陽の光が直接三味線に当たると、乾燥して傷んでしまいます。直射日光が当たる場所での保管は避けましょう。

## 三味線の各部位の名称



# 三味線のお手入れ・保管方法

## 三味線の演奏準備



### 1. 取り出す時は、水平な場所で行ってください。

演奏する場所に三味線を持ってきたら、必ず水平な場所に専用ケースを置き、取り出すようにしてください。



### 2. 固定紐を解き、三味線をケースから取り出します。

三味線を取り出す際は、必ず両手で持つようにしてください。  
固定紐を解いてから長袋ごと、左手で棹の部分を、右手で胴の部分を、下からしっかりと支えて取り出します。



### 3. 収納している袋類から三味線を取り出します。

長袋、ビニール袋、和紙袋の順に外し、三味線を取り出します。  
なお、ビニール袋と和紙袋は一度にまとめて外しても構いません。  
袋類を外す時には、片手でしっかり棹を持ち、もう一方の手でビニール袋と和紙袋をゆっくり引いて外します。  
棹と糸を一緒に持つと、糸が切れたり、棹に傷がつく可能性があるので注意しましょう。



### 4. 皮の保護と湿度管理のためにつけている胴板をゆっくりと外します。

胴板を外す時は、糸を指一本分ほど持ち上げ、胴板を棹の方に少しずらしてから、ゆっくりと手前に引くと、外しやすくなります。

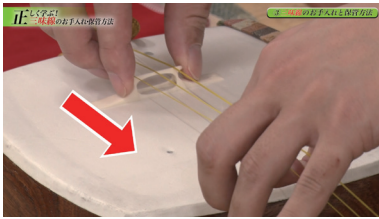


### 5. 糸を指が入るくらい持ち上げて、糸と皮の間に、駒を取り付けます。

糸を指一本分ほど持ち上げ、胴の中央あたりに駒を置きます。  
糸を駒の溝にかけてから、駒の位置まで滑らせます。  
このように取り付けることで、糸を傷つけにくく、指を挟むなどの事故を防げます。  
駒の位置は、三味線の種類によって異なるので、正しい位置は、講師の先生に確認してください。

以上で、三味線を調弦できる状態になりました。  
※調弦の方法は、講師の先生の指示に従ってください。

## 三味線のお手入れと保管方法



### 1. 演奏が終わったら、糸巻きを使って、糸を緩めて、駒を外します。

糸を緩めてから、駒を外します。

駒を外す時は、指一本分ほど糸を持ち上げ、棹側に駒をずらしてから、手前に動かして外します。

そうすることで、糸が傷つくことを防ぎます。

どの程度、糸を緩めれば良いかは、講師の先生や楽器店の方に聞くようにしましょう。



### 2. つやふきんで、棹についた手垢や指紋などの汚れを落とします。

手垢や指紋などの汚れは、優しく撫でるように拭くだけで落とすことができます。

演奏する時に、糸も触っているので、棹と糸の間も忘れずに拭いてください。

つやふきんは、棹のつや出し効果もあるので、演奏後は毎回拭くようにしましょう。

胴は、汗などが付着していなければ、拭かなくても問題ありません。

三味線を拭く時にタオルを使用すると、タオルの繊維が三味線に引っ掛かり、傷つけてしまいます。

そのため、タオルではなくつやふきんを使用しましょう。

また、三味線を水に濡らした手ぬぐいで拭くことや、アルコールを使用して拭くことは、三味線の破損に繋がるので、絶対にやめてください。



### 3. 糸と皮の間に、胴板を挟みます。

糸を指一本分ほど持ち上げ、胴板を糸と皮の間に挟み、胴板の切れ込みが音緒にはまるように動かします。

胴板には、皮を保護し、湿気を防いでくれる効果があるので、必ず挟んでください。



### 4. つやふきんで棹を持ち、袋類に三味線を収納します。

三味線を保護するために、先に和紙袋で胴を包んでからビニール袋に入れてください。

最後に、長袋に入れます。



### 5. 専用ケースに収納します。

専用ケースに収納する時は、胴から入れていきます。

入れ終わったら、専用ケースに備え付けられた紐で、三味線を固定してください。

三味線を収納したら、蓋とジッパーを閉じます。



### 6. ケースに入れたまま、保管場所へ運搬します。

ケースを立てて保管する際は、持ち手が上になるように置きます。

横向きで保管もできますが、積みすぎると崩れてしまうので、気をつけてください。梅雨から梅雨明けにかけては、短期間で湿度が大きく変わるため、三味線の皮が破れやすくなります。

そのため、一週間に一度は、自然な空気に三味線を触れさせるようにしてください。

以上が、演奏終了後の三味線を保管するまでの流れとなります。

## 三線のお手入れと保管方法

三線を保管する時は、防虫剤を入れて、虫食いに備えてください。

三線のお手入れ・保管方法は、基本的に三味線のお手入れ・保管方法に準じますが、三線の皮は、虫食いの被害にあうため、保管する時は、専用ケース内に防虫剤を入れるようにしましょう。

### 三味線のお手入れ・保管方法に関する注意点



**1. 三味線を、椅子や壁に立てかけないようにしましょう。**

三味線をお手入れ・保管する時には、必ず水平な場所で行いましょう。

椅子の上に置いたり、壁に三味線を立てかけるようなことは絶対にしないでください。

三味線を置く時は、専用ケースの上、または、専用スタンドに置くことを徹底してください。



**2. 三味線は、必ず専用ケースに入れて保管してください。**

三味線を長く大切に扱うためにも、必ず和紙袋、ビニール袋、長袋に入れた上で、専用ケースに収納し、保管してください。

### 三味線のお手入れ・保管方法に関するその他の注意事項



**1. 三味線を数か月間演奏しない場合は、空気に触れさせましょう。**

数か月間演奏しない場合は、専用ケースから三味線を取り出し、1時間程度、直射日光が当たらない室内で、自然な空気に三味線に触れさせるようにしてください。

特に、梅雨から梅雨明けにかけての、乾湿の差が激しくなる時期は、三味線の皮は破れやすくなるので、注意が必要です。



**2. 不具合が発生しても、自分たちで補修や修理は、絶対にしないでください。**

本資料に記載されている方法で、お手入れや保管をしても、三味線に傷がついたり、付属品が破損してしまう可能性があります。

そうした破損を自分たちで補修や修理をすると、場合によっては、更なる事故等につながるおそれがあります。

不具合が見つかったら、まずは楽器店に問い合わせましょう。

動画と本資料を使って、正しい三味線のお手入れ・保管方法を身につけ、より長い期間、演奏を楽しめるよう、日々の取り扱いを怠らないよう、心がけてください。

お手入れ・保管方法の動画はこちらから ▶▶▶

